

令和3年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
主管課	都市政策部 上下水道課	評価責任者	山風呂 敏	
		評価日	令和4年4月27日	
関連課	環境課			
目標	快適な生活環境のために浸水被害を防止する雨水対策を進めるとともに、生活排水処理の促進を図ります。また、既存下水道施設についても、適切な維持管理や老朽化した施設の更新を行います。			
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 雨水対策の推進及び排水施設の維持管理 ○都市型浸水被害を防止するため、排水施設の整備を進め、既存施設についても適切な維持管理や長寿命化修繕計画に基づき修繕を行います。 ○県で進めている河川の洪水防止のための雨水浸透マス設置事業について、説明会の開催などに協力します。</p> <p>(2) 生活排水処理の促進 ○市街化調整区域での排水処理を促進するため、下水道管の整備とともに、合併処理浄化槽への転換などの手法を検討します。また、市街化調整区域の整備計画及び受益者負担金の明確化を図るとともに、受益者の理解を得ながら進めていきます。</p> <p>(3) 下水道事業の経営基盤の強化 ○長期的な財政計画を策定し安定的に事業を進めていきます。</p>			

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標1	指標名	雨水浸透施設等の設置					
		説明	都市型浸水被害の軽減を図るため、西鶴ヶ岡に雨水貯留浸透槽（浸透貯留量約115m ³ ）、水宮に雨水貯留施設（貯留量約460m ³ ）を整備したことにより、計54箇所となった。					
	成果	単位	箇所					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	49	50	51	51	52	53	
	実績値	49	50	52	54			
	指標2	指標名						
		説明						
	指標3	単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値							
	実績値							
	指標4	指標名						
		説明						
	指標5	単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	1,962,149	2,076,657	2,109,061	2,065,081	2,927,028	
	人件費	72,502	78,244	75,646	75,995	88,630	
収入	特定財源	1,606,057	1,767,044	1,765,242	1,771,395	2,727,354	
	一般財源	428,594	387,857	419,465	369,681	288,304	

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	貯留浸透施設設置数	近年の降雨は集中豪雨化する傾向にあり、本市においても都市型浸水被害が発生していることから、被害の軽減に効果的な地域に、雨水流出抑制を目的とした調整池及び遊水池の整備、並びに雨水浸透施設の設置を進めている。	西鶴ヶ岡は6基目の貯留浸透施設を設置し、約1,650㎡の雨水貯留量を確保したため、道路冠水等の浸水被害の軽減効果がみられる。水宮は雨水貯留施設を整備した外、福岡江川のフェンス嵩上げと上流域での貯留浸透施設整備の相乗効果から、浸水被害の軽減が見込まれる。	雨水関連事業
取組②				
取組③				
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	近年の異常気象による集中豪雨や、大型化する台風に伴う大雨により、本市においても住家への浸水や道路冠水などの都市型浸水被害が発生していることから、浸水被害の軽減を図るため、雨水流出抑制に効果的な地域に調整池等の整備、及び雨水貯留浸透施設の設置を積極的に進めている。 整備事業の推進により、浸水被害については一定の軽減が図られていると認識しているが、降雨量は想定量を大きく上回ることもあり、浸水被害を完全に防止することは難しい状況である。また、経年により老朽化した施設や汚泥等が堆積した施設もあることから、適切な維持管理についても求められている。 こうした状況を踏まえ、将来構想の重点プロジェクトに掲げられている「強靱なまちづくりプロジェクト」による“市民が安心して暮らせる環境をつくる”ため、既存施設の適切な維持管理を徹底するとともに、雨水貯留浸透施設の設置に取り組むことにより、確保する雨水貯留量の増加を図っている。なお、雨水貯留浸透施設については、積極的な設置に注力していることから、その設置実績は将来構想の目標値を上回るものである。 令和4年度以降については、既存の雨水貯留施設の設置効果を検証しながら、川崎及び元福岡地区の浸水被害の軽減を図るため、川崎地区において調整池整備事業を進めるなど、各種財政支援制度を積極的に活用してハード対策を継続しつつ、雨水監視体制等のソフト対策についても充実を図るとともに、国、県及び近隣自治体との連携による都市型浸水被害対策を推進する。
順調	
行政資源の活用	
適切	
取組の有効性	
有効	
施策の効果	大きな効果が得られている

令和3年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		江川流域都市下水路（川越江川）維持管理負担金		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費			
所管部課		都市政策部 上下水道課		評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間				評価日	令和4年3月31日
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例、江川流域都市下水路の設置及び管理並びに住民の利用に関する協定書			
事務事業の内容	事務事業の目的	江川流域都市下水路（川越江川）の排水区域内の住民は、下水道接続以外の生活排水（浄化槽処理水）及び雨水を江川流域都市下水路（川越江川）への放流ができることから、施設の維持管理等について川越市が管理を行い、要した費用の負担割合分を本市が負担する。			
	事務事業の経緯	江川流域都市下水路（川越江川）の排水区域内の住民が、当該区域内の生活排水（浄化槽処理水）及び雨水を江川流域都市下水路（川越江川）に放流することができるよう、維持管理等に要する費用について川越市と負担割合の協定を締結し、効率的な維持管理を行っている。 ・負担割合 本市：50.7%、川越市：49.3%			
	事務事業の概要	管理者の川越市が支出する維持管理経費（保守点検等）に対して、負担割合に応じて負担金を支払う。			
	令和3年度の主な取組	管理者の川越市が実施する草刈清掃業務委託及び樋門保守点検委託等の維持管理に要する費用並びに江川流域都市下水路流入改善工事に要する費用を精査し、負担割合に応じた負担金を適切に支出した。			

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	806	806	806
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		806	806	806	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	0	0	0	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	53,446	4,358	8,424	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	0	0	0		
支出合計		54,252	5,164	9,230	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		54,252	5,164	9,230	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		474	45	79	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員（産休代替等除く）の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>管理者の川越市が実施する草刈清掃業務委託及び樋門保守点検委託等の維持管理に要する費用並びに江川流域都市下水路流入改善工事に要する費用を精査し、負担割合に応じた負担金の支出を、川越市からの請求に基づき令和4年3月に行った。</p>
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	江川流域都市下水路（川越江川）の適正な維持管理等を行うために必要な負担金であるが、川越市で実施した内水解析業務の結果を踏まえ、負担割合の変更協議を継続的に実施する。
中長期的方向性	
継続	

令和3年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道事業管理等事務	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		下水道事業会計		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間			評価日	令和4年3月31日
個別計画 根拠法令・条例等		下水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例、ふじみ野市下水道条例、ふじみ野市下水道事業経営戦略		
事務事業の内容	事務事業の目的	生活環境の改善、雨水の排除及び公共用水域の水質保全を図り、快適で安全な市民生活を確保するため、計画的・効率的な事業経営に取り組む。 また、下水道事業の健全運営に資するため、事業経営の基礎となる下水道使用料を適正に収納する。		
	事務事業の経緯	下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法の全部を適用する地方公営企業となり、市長部局から独立し、独立採算が求められている。地方公営企業として適正な予算・決算及び出納事務を実施し、併せて継続的に安定的な経営を維持する。		
	事務事業の概要	的確な下水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行う。 なお、下水道使用料の賦課徴収に関する業務については、水道事業に委託している。		
	令和3年度の主な取組	下水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。 市街化調整区域の公共下水道（汚水管渠）整備に係る工事内容や受益者負担金制度について、令和4年度から整備を計画している地域の受益者に対する説明会を開催した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	3.53	3.30	3.80
		人件費	28,442	26,589	30,617
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		28,442	26,589	30,617	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	672	1,388	332	
	委託料	82	147	5,547	
	使用料及び賃借料	1,101	1,348	1,172	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	721,142	729,088	759,296	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	1,004,712	996,796	983,929	
支出合計		1,756,151	1,755,356	1,780,893	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	1,335,572	1,373,592	1,505,381
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	123,800	75,500	136,200
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		296,779	306,264	139,312	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		2,591	2,678	1,195	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	当年度純利益（純損失）額		
	説明	収支状況を表し、収益から費用を減じた事業活動の最終的な収支状況を表す指標。 ※この数値がプラスであれば純利益、マイナスであれば純損失が生じている。 ※令和3年度実績は、決算見込値。		
活動	単位	千円		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	51,042	49,617	54,150
	実績値	204,272	245,846	
指標 2	指標名	経常収支比率		
	説明	経常費用が経常収益によって、どの程度賄われているか収益性を表す指標（経常収支比率＝経常収益/経常費用×100） ※令和3年度実績は、決算見込値。		
成果	単位	%		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	103.33	103.23	103.51
	実績値	113.88	116.55	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	下水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。 市街化調整区域の公共下水道（污水管渠）整備については、令和3年5月8日に市役所本庁舎、翌9日に大井総合支所において、工事内容や受益者負担金制度に係る説明会を開催した。整備決定までの経緯、工事スケジュール、負担金の積算方法及び徴収猶予制度等について説明し、概ね理解を得た。 さらに、令和3年11月27日には駒林自治会が主催した質疑応答会に担当職員が出席し、質問等への対応を行った。 ・令和3年5月8日（土） 本庁舎5A大会議室 午前の部 41人 午後の部 20人 ・令和3年5月9日（日） 大井総合支所ゆめぼると 午前の部 31人 午後の部 23人 ・令和3年11月27日（土） 駒林自治会館 第1部 23人 第2部 19人
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	生活環境の改善、雨水の排除、公共用水域の水質保全を目的に下水道事業の運営を行っている。下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法の全部を適用する地方公営企業となり、市長部局から独立し独立採算制を原則としていることから、「ふじみ野市下水道事業経営戦略」に基づき、今後も持続可能な経営を維持する必要がある。
中長期的方向性	市街化調整区域の公共下水道（污水管渠）整備については、受益者負担金の新規賦課及び徴収事務が円滑に行われるよう、工事説明会等において対象地区住民に対する受益者負担金制度の周知及び啓発を図る。また、「ふじみ野市下水道事業経営戦略」については、本市の現況に即した中間見直しを行い、より効率的かつ効果的な経営戦略に改定する。
継続	

令和3年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道施設管理・整備事業（污水）		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		下水道事業会計			
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳	
事務事業期間			評価日	令和4年3月31日	
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例、ふじみ野市公共下水道事業受益者負担に関する条例、ふじみ野市下水道事業経営戦略、下水道ストックマネジメント基本計画			
事務事業の内容	事務事業の目的	下水道施設の良好な機能を維持する。			
	事務事業の経緯	市内の公共下水道（污水）は、都市計画法、下水道法に基づき、整備区域拡大を図ってきた。また、過去に整備してきた公共下水道施設の老朽化が進んできていることから、下水道法令や経営戦略との整合を図る。			
	事務事業の概要	①下水道施設の日常的な管理運用と計画的な保守点検を行い機能を維持する。 ②水質検査を計画的に実施し、利用者に対し適切な排水指導を行う。 ③埼玉県荒川右岸流域下水道の新河岸川水循環センターにて汚水を高度処理するための負担金の支払い。			
	令和3年度の主な取組	①社会資本整備総合交付金により、管路施設等の維持管理費の平準化を図るためにストックマネジメント点検調査業務を実施した。 ②特定施設や除害施設に対する水質検査を実施し、改善が必要な事業所等に対し排水指導を行った。 ③公共下水道の不明水削減を図り、負担金の低減を実現するため、不明水対策調査を推進した。 ④公共下水道（污水）整備予定地区への地元説明会を行い、管渠築造工事実施設計を行った。また、上沢勝瀬線においては公共下水道（污水）管渠築造工事を実施した。			

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.50	1.70	1.30
		人件費	12,086	13,697	13,697
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.00	0.00
		人件費	1,061	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		13,147	13,697	13,697	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	14,487	20,311	19,355	
	委託料	51,735	73,477	74,246	
	使用料及び賃借料	250	251	251	
	工事請負費	0	54,450	339,307	
	負担金、補助及び交付金	0	831	16,440	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	1,692	4,069	3,974	
支出合計		81,311	167,086	467,270	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	6,640	4,700	112,700
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	69,771	130,486	89,470
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	4,900	31,900	265,100
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	有収率		
	説明	ゲリラ豪雨等による雨水の流入及び、老朽化した下水道管への不明水の流入により、排水量(不明水)が増加していることから、改修・修繕が、不明水の流入軽減にどれだけ効果があったかを測るもの。※令和3年度実績は見込値		
活動	単位	%		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	84.50	84.50	84.50
	実績値	72.80	85.70	
指標 2	指標名	下水道普及率		
	説明	行政区内内の公共下水道(汚水)の普及を促進するため、未整備区域の解消を図る必要がある。		
活動	単位	%		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	94	94	94
	実績値	94	94	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【ストックマネジメント計画】 令和3年度社会資本整備総合交付金による点検調査業務を約20km(マンホール目視調査工1100基, マンホール蓋点検工1100基)実施した。効果としては、大規模修繕箇所は発見されなかったため、公共下水道の経営戦略において更新計画を上方修正できるようになった。</p> <p>【未普及地区の対策】 市街化調整区域内の公共下水道(汚水)未整備地区については、5月に2日間かけて公共下水道の整備内容や受益者負担に関する説明会を実施したほか、駒林自治会の要請を受けて公共下水道の整備スケジュールや受益者負担金算定方法、及び負担単価等の質疑応答会を開催し、公共下水道の整備拡大を丁寧に周知した。大井・苗間、駒林、川崎地区において、令和4年度の工事着手にあたり工事実施設計を進めることができた。</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	公共下水道施設の日常の安全点検を確実に行うことにより、施設の損傷を早期に発見し改善するとともに、引き続き県や関係市町と協力して不明水対策調査に取り組む。また、管路等施設のストックマネジメント実施方針により、維持管理業務の効率化を図るとともに、維持コストの平準化により経済的な維持管理業務に資する。さらに、ストックマネジメント計画調査を継続しながら、緊急度の高い施設を必要に応じて改築又は更新を実施することにより、安全・安心な下水道施設を維持する。
中長期的方向性	市街化調整区域の未普及対策については、未整備区域の解消を図るため、順次調査・設計業務を実施し、地元説明会を実施しながら事業を進める。
拡充	

令和3年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道施設管理・整備事業（雨水）		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		下水道事業会計			
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳	
事務事業期間		～令和25年度	評価日	令和4年3月31日	
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例、下水道ストックマネジメント基本計画			
事務事業の内容	事務事業の目的	浸水被害の軽減を図るため、雨水貯留浸透施設等の整備を促進するとともに、適正な施設の維持管理を行なう。			
	事務事業の経緯	平成27年度から令和2年度までに大井武蔵野地区に2基、亀久保大野原地区に1基の雨水調整池を設置した。また、元福岡地区等の浸水被害軽減対策として、令和3年1月26日に川越市と内水対策施設の整備に関する協定を締結し、川崎地内に調整池及びポンプ施設を設置する計画を進めている。			
	事務事業の概要	台風や集中豪雨により雨水浸水実績のある地区を優先として、雨水貯留浸透施設の整備を促進する。また、富士見市との協定に基づき砂川堀第2雨水幹線の維持管理を定期的に行う。			
	令和3年度の主な取組	①川越江川に係る内水対策施設事業として、川崎地内に貯留量約38,000m ³ 、吐出力毎秒約3.5m ³ のポンプ施設を設置するため、都市計画変更決定及び事業認可、下水道事業計画の変更を行った。また、測量調査業務において土地所有者と境界確認を行ったほか、土質調査業務、費用対効果策定業務を行った。 ②富士見市との協定に基づき砂川堀第2雨水幹線の維持管理として除草等を定期的に行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.30	0.30	2.00
		人件費	2,418	2,418	12,086
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
	人件費計	2,418	2,418	12,086	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	730	583	1,679	
	委託料	11,310	58,269	113,437	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	117,226	2,640	2,640	
	負担金、補助及び交付金	0	6,400	4,537	
	扶助費	0	0	0	
其他事業費	65	2,061	437,108		
	支出合計	131,749	72,371	571,487	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	89,000	0	247,800
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	49	49,471	223,287
		地方債	42,700	22,900	100,400
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	0	0	0	
	市民1人あたりの負担コスト(単位：円)	0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	川崎調整池整備事業		
	説明	川崎調整池整備事業の進捗管理として、事業費ベースの進捗率の算出を行っている。		
成果	単位	%		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	0	2	12
	実績値	1	2	
指標 2	指標名			
	説明			
活動	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【川崎調整池整備事業】</p> <p>令和4年度社会資本整備総合交付事業の交付要件、及び収用に伴う所得税特別控除の適用を受けるため、令和4年3月に都市計画事業認可を行った。また、測量調査業務に伴い境界確認立会いを実施し公図の一部訂正などを終了したことから、用地交渉の準備作業を進めることができた。さらに5箇所の地点でボーリング調査を実施したため令和4年度の工事実施設計で使用する設計条件を準備することができた。費用対効果策定についても交付要件を充たす数値B/G2.46を確認することができた。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	本市元福岡地区や川越市寺尾地区において、平成29年台風第21号及び令和元年東日本台風により発生した内水浸水被害の再度災害軽減を図るため、早期の内水対策施設（調整池・ポンプ施設）の完成を目指す。
中長期的方向性	
拡充	

令和3年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		福岡江川幹線事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		下水道事業会計			
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳	
事務事業期間			評価日	令和4年3月31日	
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	福岡江川幹線の機能保持及び管理の適正化を図る。			
	事務事業の経緯	近年の気候変動による豪雨により、福岡江川幹線周辺にて浸水被害が発生してきたことから、雨水の適正排除のための下水道機能を保持し、適切な維持管理を必要としてきた。			
	事務事業の概要	福岡江川幹線の定期的な清掃及び修繕等を計画的に行う。			
	令和3年度の主な取組	谷田橋上流部の福岡江川右岸で実施した雨水貯留施設設置工事に合わせて、福岡江川幹線のフェンス及び基礎ブロックを延長約200m施工した。6月から11月までの出水期間には江川樋管部に臨時用排水ポンプ2基を設置し、水宮地内の浸水被害軽減に備えた。国道254号バイパスから上流約670mの区間において土砂浚渫を実施し、円滑な流下能力を確保した。水天宮橋から上流側約1,650mの暗渠区間においては、函渠内潜行点検調査を行うとともに、コンクリート圧縮強度試験を実施した結果、コンクリートの劣化等は見られなかったが、木根侵入が発見されたため、除去作業を行い被害拡大を防止した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.80	1.00	1.20
		人件費	6,446	7,507	8,057
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.00	0.00
		人件費	1,061	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計		7,507	7,507	8,057	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	349	1,391	291	
	委託料	4,476	6,861	26,607	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	28,165	10,682	1,782	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	0	0	0	
支出合計		40,497	26,441	36,737	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	40,497	26,441	14,737
		地方債	0	0	22,000
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	浸水被害軽減策としての浚渫		
	説明	台風や集中豪雨等の大雨後に、福岡江川幹線の底面に汚泥が堆積し流下阻害をもたらすおそれがあることから、浚渫を実施することにより、流域の浸水被害の軽減を図る。		
活動	単位	m		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	750	750	0
	実績値	380	670	
指標 2	指標名	福岡江川護岸嵩上げ事業		
	説明	台風やゲリラ豪雨時の水位の上昇による福岡江川からの溢水を軽減するため、左右岸においてフェンス基礎ブロックを嵩上げし貯留能力を高める。		
活動	単位	m		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	731	190	0
	実績値	716	200	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【浸水被害軽減策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水ポンプ設置 新河岸川と福岡江川幹線の合流部において、出水期間に限定して臨時用排水ポンプ（1分当り4m³排水）を2基設置した。このことにより、同幹線の排水機能を適正な状態に維持した。 ※設置期間 令和3年6月1日～令和3年11月30日 ・浚渫 福岡江川幹線開渠部（水天宮橋～谷田橋間）において幹線底部に堆積した汚泥の浚渫作業を行った。このことにより、同幹線の流下能力を維持し、付近住宅の浸水被害の発生を防止した。 ※施工延長 L=約670m 土砂処分量 V=約33m³ 本年度に嵩上げ事業が完了したことから、翌年度からは隔年事業とする。 ・護岸嵩上げ工 福岡江川幹線開渠部（水天宮橋～谷田橋間）の溢水を防止するため谷田橋上流部のフェンス基礎ブロック嵩上げ工事を行った。これにより、左岸側（水宮地区側）についても全て嵩上げが完了したため、浸水被害の軽減が図られた。 ※施工延長約200m（左岸側）
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	福岡江川幹線と新河岸川との合流部で、出水期間中、臨時排水ポンプ（8吋2台）の設置を継続して行い、幹線底部の汚泥堆積を監視し、流下阻害防止のため浚渫作業を行っていく。また、施設機能を保全するため除草作業を継続的に実施する。
中長期的方向性	福岡江川幹線の暗渠区間約950mについて、函内潜行調査継続し、内面異常の有無を点検する。福岡江川護岸嵩上げ及び江川右岸側の雨水貯留施設の整備効果を監視しながら、企業誘致土地区画整理事業で整備する調整池の効果も一体的に見極めながら、さらなる対策を図るため、令和4年度においては福岡江川流域の流出解析業務を実施することにより実態調査を進める。
拡充	

令和3年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道事業負担金	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 03公共下水道費		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間		平成28年度～	評価日	令和4年3月31日
個別計画 根拠法令・条例等				
事務事業の内容	事務事業の目的	地方公営企業は、経費の負担の原則により、その性質上、地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費（雨水処理に要する経費等）については、一般会計等において負担するとされており、対象経費に対する負担金を支出することで、負担区分の適正化を図る。		
	事務事業の経緯	下水道事業においては、汚水処理と雨水処理があり、経費の区分について、雨水の排除や公共用水域の水質保全などは、「雨水公費・汚水私費」の原則により一般会計において負担するものとされていることから、下水道事業への負担金は、総務省の繰出基準に基づき適切に算定している。		
	事務事業の概要	下水道事業では、汚水を処理する公共下水道と雨水を処理する一般管を有しており、河川等の水質改善及び生活環境の向上に寄与するために、適正な維持管理が必要となることから、下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、下水道事業会計への負担金（繰出金）を支出する。		
	令和3年度の主な取組	経費負担区分の適正化を図るため、国の繰出基準に基づき適切に積算された負担金（繰出金）を下水道事業会計へ支出した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10
		人件費	806	806
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		806	806	806
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	0	0	0
	委託料	0	0	0
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	0	0	0	
支出合計		806	806	806
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		806	806	806
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		7	7	7

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員（産休代替等除く）の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	一般会計繰出金のうち企業の収入を充てるべき経費に対する繰出金の率		
	説明	一般会計より繰り出される繰出金において、国が一般会計で負担すべきと定める「繰出基準」を負担金（繰出金）の原則とすることにより、地方公営企業の経営健全化を図る指標とする。 ※この比率が0%である場合、企業収入を充てるべき経費の中に一般会計繰出金が充当されていないことから、経営の健全化が図られている。		
	単位	%		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	経費負担区分の適正化を図るため、国の繰出基準に基づき、適切に積算された負担金（繰出金）を下水道事業会計へ支出した。
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	下水道事業では、汚水を処理する公共下水道と雨水を処理する一般管を有しており、河川等の水質改善及び生活環境の向上に寄与するために、適正に維持管理しなければならない。 下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、今後も下水道事業会計への負担金（繰出金）を支出していく必要がある。
中長期的方向性	
継続	

令和3年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		排水施設事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間			評価日	令和4年3月31日
個別計画 根拠法令・条例等		地方自治法、下水道法、ふじみ野市下水道条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	下水道施設の良好な機能を維持することを目的とする。		
	事務事業の経緯	大雨などで一般下水道施設への土砂等の流入により、排水機能が低下したことで、道路冠水等の浸水被害が発生した経緯を踏まえ、施設の適正かつ良好な維持管理を行う。		
	事務事業の概要	排水施設等の定期的な清掃及び点検等を計画的に行う。		
	令和3年度の主な取組	富士見市との協定に基づき実施している旧砂川堀改修工事については、平成30年度まで年間の施工延長を2mとしてきたが、浸水被害の危険を早期に軽減することを目的として、令和元年度から年間に10mの施工延長を実施してきたので、令和3年度においても延長約10m、水路幅2mのU型水路に改修した。また、一般下水道管が効率的に機能するよう約1,900mの管洗浄業務を実施した。さらに、亀久保地区の排水困難対策として一般下水道管を約243m、亀久保三丁目の浸水軽減を目的とした一般下水道管を約60mそれぞれ布設した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.10	1.30	1.00
		人件費	8,863	10,475	10,475
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.00	0.00
		人件費	1,061	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		9,924	10,475	10,475	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	8,230	8,981	51,396	
	委託料	4,727	17,299	16,031	
	使用料及び賃借料	103	0	104	
	工事請負費	12,566	15,847	23,756	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	2,717	2,956	2,988		
支出合計		38,267	55,558	104,750	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	4,913	5,209	2,887
		地方債	0	0	0
		基金	0	15,996	7,392
		その他	0	0	0
一般財源		33,354	34,353	94,471	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		291	300	810	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員(産休代替等除く)の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	一般下水道管の洗浄		
	説明	雨水や雑排水の滞留を防止するため、一般下水道管内の洗浄業務の実施延長。		
活動	単位	m		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	350	350	350
	実績値	174	1,900	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【一般下水道管渠清掃】 350m管渠清掃を計画していたが約1,900mに増やし、一般下水道管内の滞留防止を図った。台風等の大雨が発生するとさらなる土砂堆積も見込まれることから計画的な洗浄業務を実施していくことで浸水被害軽減の効果が発揮される。</p> <p>【旧砂川堀改修工事】 旧砂川堀について、令和3年度においても、施工延長約10m改修したことから、旧砂川堀周辺の苗間地区の浸水被害軽減対策が促進されている。 令和4年度に改修工事が完了する見込みであり浸水被害軽減効果が期待できる。</p> <p>【雨水排水路維持管理】 雨水排水路について、除草等の定期的な維持管理を実施したことにより、適正な施設状態の保全と円滑な流下能力の確保に努めたことで、水害や雨水滞留を抑制する効果が見込まれる。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	旧砂川堀改修工事は、浸水軽減を早期に実現するため、令和元年度から延長を延ばして施工を継続してきたが、令和4年度での整備完成を目指す。 また、昭和40年代に布設された一般下水道管の劣化状況を調査するため、一般下水道管内のテレビカメラ調査を実施しているが、安全な下水道施設を維持する観点から、国道や県道、主要な市道に埋設される一般下水道管を優先に、引き続きテレビカメラ調査を行っていく必要がある。
中長期的方向性	
継続	

令和3年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		雨水関連事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費			
所管部課		都市政策部 上下水道課		評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間		～令和25年		評価日	令和4年3月31日
個別計画 根拠法令・条例等		地方自治法、下水道法、ふじみ野市雨水流出抑制対策取扱要綱			
事務事業の内容	事務事業の目的	雨水の流出抑制として雨水浸透施設の設置、及び機能保持に必要な清掃・点検等を行うことにより、雨水浸水の防止・軽減を目的とする。			
	事務事業の経緯	大雨により市内各地で浸水や冠水被害があった経緯を踏まえ、都市型水害対策として、遊水池や雨水浸透施設などの整備を進めるとともに、開発行為により整備される宅地・道路に対し、雨水流出抑制対策取扱要綱に基づき雨水浸透施設の設置に対する指導を行ってきた。			
	事務事業の概要	浸水被害が発生している地区に雨水貯留浸透施設等の設置を行う。併せて、雨水貯留浸透施設の清掃・点検等を定期的に行う。			
	令和3年度の主な取組	西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事については、6基目となる貯留量約115㎡の施設整備が完成した。水宮地区の浸水被害軽減を図るため、谷田橋付近の福岡江川右岸側において、延長約117mの雨水貯留施設コルゲートフリューム(幅1.8m×深1.0m)を布設し、下流側に整備済の放流管渠(350mm)に接続した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.30	1.70	1.50
		人件費	10,475	13,697	12,086
	再任用職員	従事人数(人)	0.40	0.00	0.00
		人件費	2,121	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		12,596	13,697	12,086	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	1,672	1,687	2,373	
	委託料	16,080	5,776	21,658	
	使用料及び賃借料	2,835	1,586	3,572	
	工事請負費	48,420	35,317	4,690	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	71	231	106		
支出合計		81,674	58,294	44,485	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	47,400	35,200	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		34,274	23,094	44,485	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		299	202	381	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員(産休代替等除く)の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	雨水浸透施設等の設置		
	説明	浸水被害を軽減するため、雨水浸透施設等の設置基数。		
活動	単位	基		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	52	54	54
	実績値	52	54	
指標 2	指標名	浸透施設等維持管理		
	説明	ゲリラ豪雨等による浸水被害を軽減するため、浸透施設等の清掃業務の実施基数。		
活動	単位	基		
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値	12	12	12
	実績値	12	12	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>【西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事】 緑ヶ丘地内の雨水浸水被害を軽減するため西鶴ヶ岡一丁目に6基目となる雨水貯留浸透槽（浸透貯留量約115m³）を設置した。合計で貯留量約1,615m³の雨水貯留浸透槽が設置されたため、緑ヶ丘及び西鶴ヶ岡地内の道路冠水は、著しく軽減することができている。</p> <p>【雨水浸透施設清掃等業務】 雨水浸透井戸の清掃3箇所、遊水池等草刈り7箇所、遊水池等樹木剪定1箇所、東原親水公園の浚渫1箇所の合計12箇所の雨水関連施設について、除草や浚渫清掃を行ったことにより、施設の適正な機能を確保することができた。</p> <p>【遊水池等監視カメラ設置】 遊水池等に監視カメラを10箇所設置したことにより、豪雨時において遠隔からタブレット端末器を通してモニタリング監視を実施することができた。</p>
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	台風や集中豪雨により雨水浸水被害にあった地区については、雨水貯留浸透施設の整備を進めているが、設置済みの雨水浸透槽の効果を見極めながら今後のさらなる雨水対策の整備方法を検討するとともに、福岡江川雨水幹線へのピークカットについても検討を行う。
中長期的方向性	また、10箇所の遊水池等に設置した監視カメラについては、IoTを活用した水害対策として導入しているものであるが、今後さらに福岡江川樋管付近に増設を計画し、台風やゲリラ豪雨時の状態を早期に情報取得できるよう遠隔からのモニタリング監視の強化を図る。
拡充	